

客舎の壁に題す（雲井龍雄）

欲成斯志豈思躬 埋骨青山碧海中
醉撫寶刀還冷笑 決然躍馬向關東

斯の志を成さんと欲して 豊窮を思わんや

解説 薩長の横暴を憤り、東奔西走した中で、奥羽連合結成をめざして活躍しようと、故郷米沢を発つたときの詩であろう。

語釈 ※客舎Ⅱ宿屋。はたご。※題Ⅱしるす、書きつける。※斯Ⅱ「この」と読む指示語。ここでは奥羽連合を成し遂げようとする自分の志。

※豈思躬Ⅱ自分の命を投げ出してもやりとげねばならないという覚悟を述べようとする。

※埋骨Ⅱ自分の骨を埋める。すなわら、死を意味する。※青山Ⅱ木々の茂った山。※碧海Ⅱ青い海。

※宝刀Ⅱ伝家の宝刀。

骨を埋む 青山碧海の中

酔うて 宝刀を撫し 還 冷笑す

決然 馬を躍らして 關東に向う

通釈 自分の信ずるところを貫徹しようとするのみで、身の安危生死などを顧みる気持はない。そうであるから、どこで果てようとも思うことはない。草蒸す屍と成り果てようとも、水漬く屍と沈もうとも覚悟はできている。そんなことを考えていると、思わず昂ってきて、酔いの紛れに伝家の宝刀に手をかけ、また、時世を冷やかに笑う。意を決して、馬を躍らせて、目的を達すべく關東めざして道を急ぐのである。